

会議議事録

				記録者	仲村 堯之
供覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	G員
件名	第2回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	令和3年10月19日(火)				
時間	午前10時～正午0時				
場所	龍ヶ崎市役所 5階全員協議会室				
出席者	最上位計画策定審議会委員 鈴木 麻里子 委員, 谷口 佳菜子 委員, 田中 治彦 委員, 中村 友則 委員, 武藤 成一 委員, 北川 滋也 委員, 池永 直子 委員, 石引 公子 委員, 披田 信一郎 委員 中山市長 事務局 市長公室 松尾室長, 企画課 岡野課長, 小室課長補佐, 記録者				
欠席者	深澤 泰子 委員, 郡司 悦子 委員, 櫻井 惇 委員, 渡邊 孝 委員				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公開	非公開(一部非公開を含む)とする理由	(龍ヶ崎市情報公開条例第 条 号該当)		
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開				
発言者	内容				
	開会 市長あいさつ 事務局紹介 会長あいさつ 議事録署名人の指名(鈴木会長, 中村委員, 武藤委員)				
鈴木会長	それでは、議題に入りたいと思います。最初の議題は、「第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの計画期間延長について」でございます。事務局から説明をお願いします。				
事務局	≪事務局より資料に基づき第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの計画期間延長について説明≫				
	ただいま事務局より第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの計画期間延長についての説明がありました。これらについて何かご質問等があればお願いいたします。 事務局でも説明がありましたが、前回会議で次期最上位計画の策定基本方針やスケジュ				

	<p>ールについては、計画期間を延長するという事で説明を受け、審議会として了承しておりますことをお含みおきください。それでは、ご質問お願いいたします。</p>
<p>披田委員</p>	<p>先ほどの説明の中で延長に際しての課題があって、それに対する方針が述べられています。その課題の前に一つ、SDGs・国土強靱化・自治体DXなど、新たな政策課題への対応と記載されています。SDGsなどは、りゅうほーなどへの掲載をはじめ、色々なところで流行のような扱いをされていて、それがどう具体的な政策になるかという点は気になりますが、自治体DXというカタカナ用語が出てくると、具体的にどういうことを考えていて、どういう風に出していくのかが分かりにくいので、もう少しそこをはっきりさせて欲しい。</p> <p>また国土強靱化については、少し前から防災などの観点でも言われていますが、いずれにしろ新しい政策課題への対応として、具体的にこの9か月延長する中でどんな関係があると思っているからこのような記述にしているのか、そしてそれは文言の拡大解釈というやり方をしましたけども、どういうふうにもそこは対応できるかというのも少し説明をしてください。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは事務局お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>DXに関しては、2040年に、人口が減少していった役所の職員も大体半分になるということ想定しながら、いわゆるデジタル化を進めなさいという指針が総務省から出ておまして、それに基づいての取り組みということになりますが、現在すでに、キャッシュレス決済ですとか、AI-OCRといった紙に書いたものを読み込んで自動認識するようなシステムの導入ですとか、そういった取り組みを進めているところです。またデジタル化の流れを今後進めていく考えもありますし、そのあたりは現在も行政改革の部分ですとか、事務の効率化であるとか、市民のサービスの向上とか、そういった面で十分取り上げられていると考えています。そのあたりにそれぞれデジタル化を位置付け、来年度進めていくと当然その先にこのデジタル化、いわゆるDXをどのように総合計画の中で位置付けていくのかということは、一つのテーマになると考えています。</p> <p>また補足ですが、新たな政策課題としてこの三つの主な例を掲げておますが、SDGsにしても、国土強靱化にしても、自治体DXにしても、国としても進めていくという方針が示されておまして、実際に龍ヶ崎市でも、これらの取り組みが始まっているところでございます。こういった部分については延長する期間が9か月という短い期間でもあり、その部分と、市として向かっていく方向性が大きく変わるものでもございませんので、このあたりは次期プランとの連動性に留意しながら、取り組んでいけるのではないかと考えて整理しております。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。ただいまのご説明について披田委員いかがでしょうか。</p>
<p>披田委員</p>	<p>追加の説明としては分かりましたが、特に自治体DXについて、国がやれと言っているからという、ある意味で龍ヶ崎市を中心に考えるという主体的でない形でやらされているという印象を受けます。加えてまだ馴染みのない言葉を使ってしまうということについて、相当な違和感を覚えます。もっと具体的なことで、これをやっているとか、これをやろうとしているということがあるのなら出していただきたい。こういう説明の場合においても、そうした配慮があったほうがいいのではないかと思います。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。この点について事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>DXという、国全体で進めているからそれに従ってという説明をしてしまいましたが、国全体で推進しているだけではなく、当然この龍ヶ崎市でも、推進をしているということでご理解いただければと思います。そしてDXという言葉が分かりづらいということですが、簡単に言うと、ICT技術を使って、行政の事務の効率化をしましょうというのが大きな柱です。もう一つ</p>

	<p>が、それによって、市民の皆さんがより利便性を感じられる、便利になったと実感できるようなものにしていこうというのが、二つ目の大きな柱ということでご理解いただければと思います。具体的に申し上げますと、自治体も国も各種申請でコンピューターを使ってできるものが非常に少ない。そしてこのコロナ禍の中でそういったことがクローズアップされました。そういった背景もありまして、コンピューターを使って、ICT技術を活用していろいろな申請など、わざわざ役所の窓口に来なくてもできるようにしたいのではないかと。決済などもわざわざ現金決済しなくてもいいのではないかと、そういう取組からスタートしていくということです。将来的には、残念ながら自治体でも人口が減る、当然その自治体の規模を維持していくことも難しくなるような事態になってくると思われまます。職員も減少していく中で、どうやって自治体行政を維持していくかというときに、やはり効率化、あるいは合理化という視点として、一方ではそのサービス水準を維持する、できれば水準を上げていきたいというときに、人手だけに頼るわけにもいきませんので、そういったICT技術を使って、行政の仕組みをもっといいものにしていこう、そしてその利益を市民の皆さんに享受していただく、そういう取組だということをご理解いただければと思います。そういったものはなかなか一気に進むのではありませんが、電子申請ですとかキャッシュレス決済ですとか、これまで人手に頼ってきた単純作業をコンピューターに置き換えるとか、そういうところからすでにスタートを切っているという状況でございます。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。披田委員いかがでしょうか。</p>
<p>披田委員</p>	<p>行政の考えについては分かっているつもりですが、自治体DXということ言えば、自治体デジタル活用行政改革というような言葉を使った方が、理解がしやすいのではないかとこの点を一つ、指摘をしたいと思います。</p> <p>それからもう一つ、そのデジタル化・情報化・ICTでも、納税者としてどのぐらいの費用を行政にかけてどういうサービスを進めていくのかという点が気になります。職員数をどんどん減らしていく、そして業務の効率化を進める。しかしその一方で国がすでに導入しているマイナンバー制度と、それと連動するマイナンバーカードの国民的普及ということについても、行政の効率化ということでは自治体DXなり行政DXということになるかもしれませんが、一方で番号を割り振られ、国民総番号制ということが言われたりもしていて課題だったのがマイナンバーということで実際に運用されています。そうした議論もある中で、国全体で進めているし龍ヶ崎市でも推進するということについて、そこは一つ一つを整理して考えていかなければいけないので、そういったことから、よく分からない自治体DXというよりは、行政改革とでも言った方がより分かりやすいかなと思います。事務局からあったお話のように、立場の違いによる差があるということは押さえておいたほうがいいと思います。これは今後策定が進められる戦略プランというのは、行政が行政の効率化だけを進めるものではなくて、市民全体を含めて、どのぐらいの費用をかけるのかという意味では、膨大な費用かけてでも、もっと人手をかけてしっかりやっていかなきゃいけないということもあったりする、その総合的な方針を作るのがこの戦略プランだろうという理解をしていますので、しつこいようですがこだわりました。以上です。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>行政の効率化というのが一つ目の柱で、そして市民の皆さんが便利になったとか、良くなったと実感してもらえるものが二つの柱という説明をさせていただいたと思いますが、例として、オープンデータ化の推進により、そのメリットを感じられる方も増えてくるだろうと思います。行政データは行政事務に閉じられていますが、これを匿名化することによっていろいろなデータを提供できるようになります。そして民間の事業者さんがそれを活用して事業展開す</p>

	<p>るというようなメリットの部分も出てくるだろうと思われます。決して行政改革だけを進めるのがDXではなくて、行政改革の手段としてICT技術を活用することと合わせて、結果としてサービス水準を良くしようとか、皆さんに便利になったと実感してもらえるようにしようという取組だというようなご理解をいただければと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。披田委員よろしいでしょうか。ほかにご質問のある方がいらっしゃればお願いします。</p>
中村委員	<p>今回の第一議案としましては、計画が延長するということで、理由はこのような課題があるからですという記載がされていましたが、他方で市長任期との整合性、マニフェストの反映があるということと述べられていて、確か第1回審議会の時も、そうした時期的な理由があるという話があったと理解しています。単純に次の市長選があって、次期市長の方のマニフェストを計画内容に反映するから、そしてこのコロナ等のタイミングでその辺りが加味できるように延長しようという話ではないのでしょうか。おそらく12月の市長選があってマニフェストも新たなものが出ると思うので、それをこの計画や審議会に反映するために、9か月延ばしましょうというのが主な理由なのではないでしょうか。そのために、他の理由をつけてSDGsだったり国土強靱化であったりという課題がありますということを言っていますが、先ほどの話ですと課題についてもう取り組んでいるという話だったので、次の市長のマニフェストと合わせるために、このタイミングで計画を延長しようということなのかなと思っていたのですがいかがでしょうか。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の計画期間を9か月延ばすという主な理由は、もともと令和3年度内の計画期間満了に合わせて策定したかったのですが、こういった計画を作っていく中で、市民参画のプロセスを非常に重視していきたいという考えの下、コロナ過においてはなかなかそういった機会が作ることは難しかったことから、スタートが遅れたというのが大きな理由でございます。また、これまでの課題であった市長マニフェストと最上位計画の整合については、両方とも市民の意向がふんだんに反映されているものですので、市政運営上、ダブルスタンダードにさせないためには、やはり整合を取る必要があるだろうということで、今回の9か月延長に合わせるような形となりました。当市は12月に市長選が行われるというのが通例になっておりますので、その後、市長との協議を重ね、市長選の1年後には、新しい政策集となるマニフェストと市の最上位計画が整合した形で、施策展開を計画的に進めていきたいというところが意図でございます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。中村委員よろしいでしょうか。</p> <p>それでは色々なご意見がございましたが、諮問としての期間延長について、異議はないということでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございます。それではそのように当審議会としては中山市長に答申させていただきます。答申の諸手続については私の方でさせていただきます、答申書を提出させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは次の議題に入りたいと思います。第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの振り返りについて、事務局よりご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>《事務局より資料に基づき第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの振り返りについて説明》</p>
鈴木会長	<p>それではただいま事務局より現在の最上位計画である第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン</p>

	<p>の振り返りについての説明がございましたが、これについてご意見ご質問等があればお願いいたします。次期最上位計画計策定に向けて振り返りの内容を踏まえて、次期計画での施策にどう繋げていくか、また将来予測を踏まえての今後のまちづくりの視点、方向性などについて委員の皆さんからご意見をいただければと思います。それではよろしくお願いたします。</p>
北川委員	<p>アンケート全体を通して、私の感想を事前に送らせていただいたのですが、その中でも出生率の向上が重要と考えています。子育てに対する施策は広がっているという意識が高まっているにもかかわらず、合計特殊出生率が下がっている。これは全国的な問題ではあるかと思いますが、今までの延長線上でやっても立ち行かないのではないかと思います。ここで更なる推進ということで、国の方もそうですが、なぜ今男性の育休を推進しているのか。国家公務員は昨年度かなりの比率で男性が育休を取得しています。これは、家庭の中で子育てのサポートというところに視点が当たっているのではないかと思います。日本の家庭は全体的に家事も含めて子育てのサポートということがまだまだ進んでいない部分もあるのではないかと思います。第2子誕生の多い世帯というのは、男性の家事の時間が長いというのが言われております。それが全てではないのですが、まずそのあたりをきっかけにして、例えば龍ヶ崎市で国家公務員並みに、1か月の男性育休を取得するとか、市内の事業者に対する推進をするとか、また、子供が生まれてこられるご家庭に対して、そういった一歩進んだことをやっていく段階にきているのかと思いますが、それだけでもまだ不十分だと思います。ただ、まずきっかけとしてそういうことをやっていく必要があるのかなという気がします。それと、最近では新聞にも載っていましたが、出生率を上げていっている自治体がたくさんあります。そういった所は一体何をやっているのかを参考にすべきだと思います。男性育休を推進している自治体は私の見たところあまりないように思います。ここを推進できればかなりインパクトがある事業になるのではないかなと思います。</p> <p>それともう1点、東京都民は給付金をもらうのに大変な時間がかかっていました。人口が多いからです。ワクチンも然りです。ワクチンも一回目の接種がやっと追いついていますが、初めは遅れていました。これはやはり東京にはあまりにも人が集中してきているからではないかと思います。その暮らしにくさから、今地方へ移住しているのではないかと。その受け皿が龍ヶ崎市になっていくのだと思いますが、先行してこういったことに取り組んでいる自治体というのはたくさんあります。ですから、そこは待つのではなく、やはり東京の人達に移住してもらうと具体的なアクションを起こすような、そこまで踏み込んだ展開というのは今までできていないと思うので、この魅力ある取組をもう少し整理して動かしていく時期ではないかと思います。以上2点です。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>龍ヶ崎市の男性育休の状況をご説明させていただきますと、男性職員の育児休暇は取得率100%というのを5年程度続けています。概ね1週間程度の休暇を取得するのが多い状況ですが、やはり周りの人たちに、男性の育休というのを進めていきたいということで、まずは市役所が、先んじて進めていくべきだというところがあったので、100%にこだわりながら、少ない期間でも足並みを揃えて取りましょうという話を男性職員間でもしていました。いつ取得するのかというところも試行錯誤しながら、100%の取得率を維持できているというのが現状としてありますが、その先の部分というのはまだ手がつけられていない。それをどのように市内企業など、市全体に波及していくかという取組は今できていないというのが現状なので、その辺りは課題として認識しています。やはり子供を増やすということについては、家事なども含めて気持ちの問題がすごく大きいのではないかと感じている部分がありまして、その他に</p>

	<p>もお金の問題とかいろいろありますが、やはり子供を育てることが楽しいなと感じていくと、子供が欲しいという気持ちになるのではないかと考えています。</p> <p>そういったところで市の施策としてどのようなことができるかというのはまた別の話ですが、市としても盛り上げていかないといけない部分であると考えています。都心からの移住や定住促進に関する施策としては、今も例えば住宅取得の補助ということで支援をしていますが、この点についても、まだまだ弱いというのが現状です。そういう地方に対しての移住という動きがある中で、それをどう取り込んでいくか、龍ヶ崎市に来てくださいと言っていくかというところの施策展開が弱いのが現状であると思っています。有効な施策というのは今後考えていかなければいけないというもありますし、仕事とセットという部分もあるかと思えます。テレワークとかサテライトオフィスなどの動きもありますし、ワーケーションなども一部の企業で実施されているかと思えます。ある会社では、ワーケーションを推し進めて地方に行き、特にデザイン関係の業務は東京にいなくても、どこでも作業はできるので、自分が望めば地方に行き、企業がその支援をするので地方で仕事をしてデータで送ってくればというような取組を進めているという例もあるようなので、そういうところを注視しながら、龍ヶ崎に住んでもらうということを意識した施策を考えていかなければいけないと思っています。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。北川委員いかがでしょうか。
北川委員	<p>男性育休の話ですが、人間は一人では子育てできないという動物だそうです。私もテレビ番組を見て知ったのですが、科学的に1人では子供を育てられない。ただ、今1人で育てざるを得ないようなママたちがたくさんいるのです。子育てに関わる人口をいかに増やすかというのが大きな課題で、その第一歩がご主人だということです。そこまで国は踏み込んで、子供が生まれるという人を集めて面談をして、アンケートシートを渡して、出産前から出産後までを含めて家事をどう分担するかとか、そういう細かなアンケートを戦略的に実施しているのです。そういうことをより具体的に詰めないといけない。子育ては1週間だけではなく、1か月やって初めてオキシトシンというホルモンが増えて、男性の子供に対する愛情が増えていくというのも科学的に出ていますので、そういうことを進めていただきたいと思えます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にご質問等ある方がいらっしゃればお願いいたします。</p>
田中委員	<p>施策を考える上で、人口問題は少子化も含めて一番大きいものだと思います。あまりこの問題も言いたがらない人が多いのですが、やはり外国人の問題も同様に避けて通れないのではないかなと思います。やろうとやるまいとインフラのレベルで人が足りないわけです。運輸、農業、飲食店や介護、医療、建設といったあらゆる分野で人が足りないのです。施策に入れようが入れまいが増えていくことは間違いないと思います。それがないとやっていけないので、それをどう打ち出すかということは非常に慎重に進めていかなければいけません。次の計画を立てる上では、やはり外国人をどう受け入れるのかとか、その他労働者として、都合の良い時に来てもらって、あとは帰ってくださいというわけにはいかないし、それでは人口増にもなりません。最近外国にルーツを持つ人たちの家族も増えている印象があります。お店で買い物しても時々出会います。ですからこれはもう表に出していかないといけない。今後市民の意識としてもそうだし、それから市の行財政にとっても非常に大きな課題になっていくのではないかなと思います。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。この点については事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>実際のところ龍ヶ崎にも外国の方が増えていまして、令和2年度で言えば、流入人口が若干流出人口を上回っている状況ですが、それは外国人が増えているからというのが実情で</p>

	<p>す。現在のふるさと龍ヶ崎戦略プランは重点化される事業だけをピックアップして載せているような形になりますので、外国人に対する施策というのは、特に入っておりませんが、次のプランでは、前回は説明させていただきましたとおり、網羅するような形で作ってほしいという考えになります。その中では全国的にも言われている多文化共生というジャンルがありますので、そういった施策を立てて外国人の方をどう受け入れていくか、その辺についても、検討した上で書き込んでいければと考えています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。田中委員よろしいでしょうか。 他にご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
池永委員	<p>男性の育児休暇の取得についてですが、私の友人の夫が育児休暇を取ったものの、自分が休みだという感覚で結局何の役にも立たなかったということがあったそうです。そうするとその意味がなくなってしまいます。結局ワンオペで、しかも夫の面倒まで見なくてはいけなく、ご飯も作らなきゃいけないというように仕事が増えているという人もいたようです。なので、やはりもっと若い世代から、学校の中とかで、育児休暇の取得に関することですか、家事は義務ではなく権利で、楽しいことだという教育をしていくのが大事かと感じているのですが、企業に向けて取得するように促して、まず取ってもらって子育ては大変なことだということを目の当たりにしていただくところから始まるのかもしれないので、とにかくまずは取っていただくということが大事なのかなと思います。その環境が整ったら出生率も上がっていくのかなと思っているのですが、このアンケートの結果の中で一番気になったのが目標「5「子供の健やかな成長と自立心を育むまちづくり」」のところで、若者が健全に育つ環境に満足している市民の割合というところが、令和3年の実績で18.4に急激に下がっているのがすごく気になっていて、これは皆さんがどう思ってこれを満足していないと答えられたのかも分かりませんが、ここに対して何か施策とか今後の計画とかについて考えていらっしゃるとか、これが理由だろうというのがお分かりになっていらっしゃるのであれば教えていただきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>男性が育児に関わるのが楽しいとかおもしろいとか、子供の成長が見えて何かすごくわくわくするとか、そういう機会をいかに増やせるかというところがポイントで、それを家庭の問題だからといって割り切るのではなくて、幅広くやっていかないといけないと思います。ただ、興味の感じ方というのは様々なので、例えば今も健康増進課では、プレパパ教室といって子供が生まれるお父さんに対して、子供のあやし方や体の洗い方などを体験するとか、そういうことをやりながら育児に興味を持ってもらうという取組をしていますが、それ以降何かあるかと言った時に、あまりないというのが現状で、その後になってしまうとやっぱり子どもの興味であるとか、家族の趣味とか趣向の中でどういう風に子供と一緒に関わっていけるかというのは様々だと思います。スポーツが好きなお宅だったら、スポーツと絡めて子供と一緒に関わる機会というのは増えていますが、必ずしも全てのご家庭がそうではないと思うので、そういうところをどのように促していくか、また促すための何かきっかけになるようなものは行政でも用意できるのかなという部分があると思いますので、その辺りは検討していきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。続けて池永委員お願いいたします。</p>
池永委員	<p>アンケートの令和2年の実績の若者の満足度が下がった理由をお願いします。</p>
鈴木会長	<p>この点については事務局いかがでしょうか。</p>

<p>事務局</p>	<p>健全に育つ環境に満足している市民の割合がなぜ下がったかという分析となると、なかなか難しいところもありますが、アンケート全体としてもコロナの影響というのが出ていて、全体的に満足度というのは下がり基調だというのがまず 1 点があります。その中で健全に育つ環境というのも、その若者以外の人たちが見ている若者の姿というのは多分反映されていると思うのですが、なかなかこの間外出ができなかったために見かける機会、触れ合う機会、健全育成の部分の市でやっているような取組もほとんどできていないというのが現状なので、そういうところが影響して数値が下がっているのかなと考えています。ただ言葉では若者の健全育成というものの、具体的に何をやっているかと言われるとなかなか施策として手が出せていない部分もあると思うので、この辺りはよく計画の中で重点化して考えていかなければいけない部分かと思っています。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。 他にご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
<p>北川委員</p>	<p>高校生アンケートについて、住みよいと、どちらかと言えば住みよいというのが 8 割近くあるにも関わらず、龍ヶ崎に愛着があるかというところはあまり感じない、感じないが、46.6% ということで、住みやすいが愛着がない。これは中高生に対する施策が薄かった結果ではないかと思います。いわゆる居場所づくりというところで、この期間に自分たちが、この龍ヶ崎で楽しい体験ができるような場所が用意されているのかということなんです。文京区がビーラボという青少年施設に児童館を兼ねたような施設を作っていて、夕方になると、中高生が集まってくる。そこにはダンスができるスペースもあったり、コミュニケーションが取れるスペースがあったり、勉強できるようなスペースがあった。そういったような施設はお金もかかることなので、学校の空いたところでやるとか、何か考える必要があるのかなという気がします。ここでいい体験をすれば、龍ヶ崎に対する愛着が強まって、流出人口を少なくするということに繋がっていくのではないかと思います。この点は意外と誰も考えてないところだと思います。そういう居場所をどのように市として用意していくのか、そこにスポーツを絡めて、キックボードができる場所とか、ミニバスができる場所とか、そういった利用ができれば楽しいのではないかと思います。それも実際に作るとなれば、高校生の意見を聞く。ビーラボは文京区の中高生にどんな施設か欲しいかアンケートを取ったようです。そういう取組があればいいなと思います。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。続けて披田委員お願いします。</p>
<p>披田委員</p>	<p>この後の進め方に関して意見をしたいのですが、このアンケートの調査報告の 64 ページ、一番上の 1 行目になりますが、そもそも設問が違っていると思います。令和 2 年以前については若者が健全に育つ環境という、ある程度漠然とした、抽象的なものに対する回答で、令和 3 年度では、若者が健全に育つ環境及び若者の活動を支援する機会やサービスがどうかと具体的に聞いているので、その辺の具体的なところが弱いと思います。未就学児とか小さい子供たちに対する施策は幾つかある中で、それに対して青少年への具体的施策が少ないということがこの数字の答えかと思っています。</p> <p>今は振り返りということで事務局から 13 の目標についてご報告いただいて、ある意味ではよくまとめられているという気はします。それで、特に私たち委員としてそういうことを踏まえて、新しいものを作るというのが一番大事なことでしょうから、分かった気になっていくというのがそれでいいのかという気もします。</p> <p>13 目標以前に 43 施策があって、今まで龍ヶ崎は行政内部の別機関で毎年の進捗管理を行っていて、もう少し詳細な報告があって、そしてそこには ABCD というような評価をつけていると思われま。今回はもう戦略プランの総括評価シートとなっていて、ある意味で評価を</p>

	<p>飛ばしている。目標として総括的にまとめた場合に、単純にABCDをつけてみるのもどうかということもありますが、この前にもう少し細かく、マイナスの部分も含めてどうなのかということは、審議会委員としては勉強させていただいたほうがいいだろうと思います。時間も限られている中ですので、資料だけでももっと早めに読ませておいてもらった上で、この総括的なまとめを見てみると、もう少し分かり易いくのかなと感じていました。ですからこのことについては施策レベルでもっと詳しいものについて、後日資料の配布ということでもしていただいで、できれば少しこの個別の施策についてどういう課題があるのかということが、分かるようにしたいと思っています。</p> <p>その上で、アンケートの出生率の問題であるとか、それに絡んで、男性の育休の取り方、外国人の問題などもありますが、この戦略プランにある数値目標、人口想定では 1500 人の乖離がある。そしてますます今後も乖離はありそうだという状況です。また合計特殊出生率は 1.05 という数値になっています。これは国や県、近隣市町村とも全然違う数字ですよ。例えば隣の牛久との違いは、ニュータウン計画の時期がずれてひたち野うしく周辺の人口がまだ増えているということもあって、明らかに子供の数も生まれ方も違うし、出生率も違う。そういうことも踏まえた上で、人口想定を作っていたのにこれだけずれているということについて、何を読み間違えたのか。何もしないでほったらかしたからこうなってしまったということでもなく、それなりに対応してきた。そういうことがやはり振り返りの大事なところで、その上で何を足すのか少し方針を変えるのか。ここで議論が必要だと思います。長くなりますが、もう 1 回こういう機会をいただいて、議論する場面を作っていただきたいなと思います。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。この点については事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日のこの総括評価シートにまとめるためには、43 の施策ごとに膨大な資料をまとめて毎年施策評価を行っています。それを集約したのが今回お配りしている資料です。基礎資料として、毎年取りまとめているものがありますので、最新のものを皆さんに送付させていただきたいと思います。また、前回、勉強会という提案がありまして、事務局でも対応を考えたところですが、第 5 次の総合計画を策定したときにそういった勉強会を開催しながら作ったという経緯もございますので、この審議会からの要請に応じるような形で、開催するようなことは可能かと思えます。その中でいくつかお願いがありまして、この審議会も予算が限られており、予算の増額というのは難しい状況もありますので、無報酬になってしまうところと、開催定数は定めないとか、進行の方は事務局の方にまかせていただくとか、そういった対応をご理解いただければ、また別の勉強会という形での開催ということも、皆さんと相談しながらになるかと思えますが、事務局としては可能だと考えております。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。ただいまご説明いただきましたが、決められた予算の中での運営となること、あくまで有志かつ自主的な活動ということで、事務局にご協力いただきながら開催させていただければということをお願いしたいと思います。</p> <p>それから時間もだいぶ過ぎてしまっております。まだまだご意見等あるかと思えますが、もう一つ案件があります。それでは次のまちづくり市民アンケートの結果についてとまちづくり市民ワークショップ等の結果について、こちらは関連する事項ですので一括して事務局からお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>《事務局より資料に基づきまちづくり市民アンケートの結果について及びまちづくり市民ワークショップ等の結果について説明》</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございました。 ただいまご説明いただきました件について、ご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>

<p>披田委員</p>	<p>最後にこの質問だけさせていただきます。私は市民ワークショップも参加させていただきましたが、この報告によると結局 16 人で市民は 8 人。市職員 5 人と、社会福祉協議会 3 人、という結果のようでしたが、これも結局もっと集めようと思ったものの、この程度にとどまってしまったということなのか。やはりグループワークなので多人数でやるのもどうかということもあるのは分かりますが、市民参加を一応売りにしている中で、実際に市民は 8 人だという話。それからオンラインでやってみようということと言われていたのですが、この結果報告で見ると、募集方法で相当苦勞したようです。思った以上に集まらないということを書かれていて、色々手を出したものの、開催が 4 回に分かれて、6 名・3 名・7 名・5 名というのは、継続的に参加した人がいたのでしょうか。そうすると全体として参加者が少なく感じます。それでも開催したということで、少数であっても出た意見は参考にできると思いますが、アンケートと比べてのこの差をどう見ればいいのか教えてください。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは事務局お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>対面のワークショップについては、参加者は少ないのですが、コロナ禍のための参加を控えたという方も結構多かったというのがあります。この状況下で本当にやるのかという問い合わせが何件かあったのですが、そういう状況で、ワクチンを打っていないから参加できないと言われた方もいらっしゃいました。そういう意味では予想としてはもう少しいたのかなと思うものの、結果としてはそのぐらいの人数になってしまったということです。オンラインに関しても、代替としてやってみたという部分がありますが、やはりこちらも参加者が伸びなかったというのが現状です。募集の仕方についても、サイレントマジョリティ対策として、無作為で抽出して参加案内を送ったという部分もありますが、結果としてそれぐらいの人数になってしまったということになります。</p> <p>実際には高校生やJCなど、若者を中心にもう少し多く参加されるという段取りをしていたのですが、やはりコロナの影響で、今回は参加を差し控えさせていただくということで直前に連絡があったことなどもあり、参加者が少なくなったということです。そして集まりが悪かったという状況を受けて、市公式 LINE 登録者や市政モニターを対象に、幅広く呼びかけたところではありますが、複数回参加された方もいますので、実人数としては少ないというのが現状でございます。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。 他にご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
<p>田中委員</p>	<p>二つほど感想がありまして、アンケートもあり、ワークショップあり幅広い市民からご意見を聞いているという努力があり、これは大切なことだと思います。それはある程度できていると思うのですが、それでもこぼれてしまう層がどうしてもあると思います。SDGsも誰 1 人取り残さないというのがスローガンですが、取り残されがちなのが、女性から高齢者、障がい者、子供、外国人、といった人達です。例えば子供の貧困という一つの意見をどう拾おうかというのはなかなか難しいのですが、民生委員さんとか、自治会長さんとか、あるいは福祉関係者などそれに関わっている方々がおられますのでそうした方々からヒアリングをするということも大事かと思えます。それからもう一つは、龍ヶ崎市は住みやすいけど魅力がないという結論になるのではないかと思います。住みやすいというのはすごく大事なことで、市としては一番評価される場所だと思います。ただ魅力的かどうかというのは、なかなか市のレベルでできることが限られています。商工会、あるいは市民、特に若い人たちが発言するような仕組みが必要で、その意見を取り上げてアイデアをどんどん出してもらおうということをしていかなければいけないと思いますし、SDGsでも市民参加で何かできるような提案をしてもらわないとなかなか認知度も高まらないし、アンケートでも知ってはいるが日常活動ではやってないと</p>

	<p>いう意見が多かったので、市民が参加できるような、写真とかロゴの利用などという事業を考えていただきたいと思います。自治会に働きかけようとSDGsの説明をしたところで、読んでもらえませんので、市で写真展のようなことをやっているから、応募してみないかというように、市民の背中を押せるような企画や仕組みが必要ではないかと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。</p>
披田委員	<p>勉強会については、今日議論がせつかく始まったところなので、日程調整は会長と事務局にお任せするとしても、日を置かずに開催していただければと思います。それともう1点、このアンケート調査の自由回答の内容を読ませていただくことは可能でしょうか。</p>
鈴木会長	<p>事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>閲覧いただくことは可能です。また勉強会については、会議の要綱などを作らせていただいて、なるべく時間を置かずに開催できるように調整を進めたいと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。それでは他に質問等ないようですので、これをもちまして本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>令和 3年 月 日</p> <p style="text-align: right;">会 長 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>	